

2019 年（令和元年）7 月に米国農務省が公表した未承認の遺伝子組換え小麦に係る対応についての Q&A

令和元年 7 月 19 日更新

問 1

米国ワシントン州において未承認の遺伝子組換え小麦が発見されたことに関する米国農務省の公表はどのような内容ですか？

（答）

日本時間 7 月 13 日（土）、米国農務省は以下の内容について公表しました（6 月 7 日に公表された内容の更新）。

- 2019 年 6 月 7 日に発見が発表された遺伝子組換え小麦は、除草剤グリホサート耐性の系統品種の MON71300 及び MON71800 と特定した。
- いかなる遺伝子組換え小麦も商業流通したという証拠はない。米国においていかなる遺伝子組換え小麦も販売や商業栽培されていない。
- 食品医薬品局（FDA）は、ごく少量の MON71300 や MON71800 が食品に混入したとしても安全性の懸念はないと評価している。

（米国農務省 URL）

[https://www.aphis.usda.gov/aphis/newsroom/stakeholder-info/sa\\_by\\_date/2019/sa-07/ge-wheat](https://www.aphis.usda.gov/aphis/newsroom/stakeholder-info/sa_by_date/2019/sa-07/ge-wheat)

問 2

本事案に対してどのように対応するのですか？

（答）

これまでに商業栽培が承認された遺伝子組換え小麦は、どこの国にもありません。

今回、米国で発見された 2 種類の未承認の遺伝子組換え小麦のうち、MON71800 は平成 25 年に発見されたものと同じです。現在、農林水産省が輸入するすべての米国産小麦について、船積み時に採取したサンプルを用いて検査（PCR 法）を行っていますが、これまでに検出されたことはありません。

また、もう一つの MON71300 は、今回初めて発見・公表されたものです。

農林水産省としては、当該小麦が混入していないものを輸入・販売するため、船積み時に採取したサンプルを用いて、MON71300 を検出可能な検査（ラテラルフロー法）を新たに実施します。（この方法で陽性反応があった場合は、開発中の MON71300 の PCR 法で確認を行います。）

これらの検査で未承認の遺伝子組換え小麦の混入が確認された場合は、当該ロットの輸入・販売は行いません。

### 問 3

新たに行う検査はどのようなものですか？

(答)

新たに行う検査で採用する検査法（ラテラルフロー法）は、グリホサート耐性の遺伝子組換え作物が生成する CP4-EPSPS と呼ばれるタンパク質を検知する方法です。この方法で陽性反応があった場合は、開発中の MON71300 の PCR 法で確認を行います。

- ・ 旧モンサント社が開発を行ったグリホサート耐性のトウモロコシ、大豆などは、CP4-EPSPS と呼ばれるタンパク質を生成して耐性を発現します。
- ・ 遺伝子組換えのトウモロコシや大豆では、このタンパク質を検出する検査キット（ラテラルフロー法）が市販されています。
- ・ 新たな検査では、これらのキットを小麦の検査に活用します。
- ・ 農林水産省では、遺伝子組換え小麦（今回発見された MON71800、過去に発見された MON71700 及び MON71200）のサンプルを用いて、これらのキットが小麦でも反応することを実証試験で確認済みです。
- ・ 米国より取り寄せた MON71300 のサンプルについても、キットに反応することを確認しました（7月19日）。

(検査法 URL)

[http://www.maff.go.jp/j/seisan/boueki/nyusatu/n\\_announce/1907kensahou.pdf](http://www.maff.go.jp/j/seisan/boueki/nyusatu/n_announce/1907kensahou.pdf)

### 問 4

米国産小麦の輸入・販売は停止しないのですか？

(答)

今後、米国産小麦については、船積み時に採取したサンプルを用いて、新たな検査及び PCR 法による検査を実施し、今回発見された未承認の遺伝子組換え小麦の混入の有無を検査します。

これらの未承認の遺伝子組換え小麦の混入が PCR 法による検査で確認された場合は、当該ロットの輸入・販売は行いません。